

紀尾井だより

1/2 January / February 2024 [Vol.163]

インタビュー

常磐津千寿太夫 & 都了中

完璧なテクニック、澄み切った美音

アウグスティン・ハーデリヒ

連載

歌舞伎をめぐる音楽のことごと 第五回

歌舞伎と河東節

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

近代におけるフーガをめぐる3話



紀尾井ホール



邦楽
明日への扉

2023年から始まったシリーズ「邦楽明日への扉」、今年は常磐津節の
常磐津千寿太夫と一中節の都了中にスポットをあてます。
常磐津節と一中節は三味線を伴奏に語る「浄瑠璃」で、常磐津節は初世
常磐津文字太夫(1709-1781)が江戸で、一中節は初世都太夫一
(1650-1724)が京都で創始。300年以上の歴史ある語りもの音
楽です。その浄瑠璃方として次世代を担うふたりに公演の聴きどころや意
気込みなどを伺いました。

常磐津千寿太夫 & 都了中



紀尾井小ホールロビーにて

セリフが特徴、常磐津節

「歌舞伎と密接につながってきた常磐津節は、一中節とは異なりセリフがあり、より物語性が強いのが特徴です」と常磐津千寿太夫。今公演では、曲調の異なる3曲を披露します。

幕開けは、初代文字太夫が常磐津節を興して最初に発表した《老松》。謡曲《老松》の一部を取り出し一曲とした短い格調高い祝儀物です。続いて千太郎と廓を抜け出した遊女・小夜衣の道行で《小夜衣》。そして常磐津節を代表する大曲《関の扉下》。一面雪景色のなか桜が満開の逢坂の関を舞台に、天下を狙う大友黒主(関兵衛)と、それを阻止しようとする小町桜の精(墨染)が争うさまを描きます。大友黒主を千寿太夫が、小町桜の精を常磐津松希太夫が演じます。

「関兵衛が酔っ払ってでてくる場面や、関兵衛と墨染のやりとり、最後の立ち回りの激しさなど、一曲のなかで場面がさまざまに変わり、曲調が変化する聴きどころ満載でやりがいのある曲です。歌舞伎の舞台でタテ三味線を務められる常磐津菊寿郎さんに弾いていただきチャレンジします」

若手実力派として全国で活動する千寿太夫ですが、幼少のころに稽古をした記憶がほとんどないと言います。「学校から帰ると父(常磐津光勢太夫)がお稽古をしていて、周りのお父さんたちとは違うなあと不思議に思っていました。常磐津をしないとダメなことは一度もありません。

小学校の時に、常磐津駒太夫師匠に教えていただくことになりました。お稽古のあとには食事や野球に連れて行っていただいたりして、通うのが楽しみでした。中学校1年生で常磐津千寿太夫の名前をいただきました。それからお休みをはきみ、20歳のころ、そういえば常磐津の名前を持っているし、たくさんあるレコードの中には祖父常磐津千東勢太夫の名前もあるし、お芝居や華やかな舞台に出られるかもと、常磐津初勢太夫師匠のもとで再びお稽古を始めました」

イロ詞に注目、一中節

一中節の特徴を都了中は次のように話します。

「たとえば一中節では、セリフのような表現を詞と言います。その詞に抑揚をつけて言う『イロ詞』が多用されていて、魅力的な節がついています。それを聴くと一中節だとわかります。ほかの三味線音楽に比べて、音数がそんなに多くなく、淡々と語っていくスタイルですので、初めて聴かれる方にとっては退屈に感じられるかもしれませんが、その一音一音に情景や思い



常磐津千寿太夫

が込められています。そこを味わっていたら嬉しそうです」

今公演では比較わかりやすい内容のものを選曲したといっています。京都の辰巳(東南)にあたる宇治地方の風景や情景を語る『辰巳の四季』、当時の若き歌舞伎役者の名前を並べ、最後に名馬が集まってくる情景を語る『都若衆万歳』、能からとった『石橋』の3曲です。



都了中

「来年は、初代一中没後300年ということもあり、初代作曲の『辰巳の四季』と『都若衆万歳』を選びました。『辰巳の四季』の後半に、変わらぬ御代は万々歳という歌詞があり、四海波風静かにて治まる国こそ久しけれと終わります。これは、それまで語ってきた何でもない日常が続くこと、世界の海が穏やかで平和が続くことを願う意図が初代にあったのではないかと思います。また『都若衆万歳』でも、万々歳とぞ祝しけると終わりますが、ひとりの力では成し遂げられないけれど多くの仲間がいる、優秀な馬が集まってきてあな

たが繁栄しますようにと伝えています」

子どものころ、気がついたらお稽古してもらっていたという了中。「小さなころは毎日お稽古するのではなく、父(都一中)が

主催するおさらい会が年一回あるので、その数カ月前から、じゃあやろうかという感じでした。声を出すことが好きでしたので、アニメの歌を歌うのと同じような感覚で稽古をしていました。詞の意味はわかりませんでした。お稽古することや、跡を継ぐことが本当に嫌だったからやらなくてもいいと言われましたが、やらなくてもいいと言われるとね(笑)」

歌舞伎とともに歩んできた常磐津節と、江戸時代には稽古本がない家はないといわれるほど一世を風靡したという一中節。ともに現代人には遠い存在の音楽となっていました。しかし、そこには今も変わらない自然を愛でる気持ちや人情、愛憎、平和を願う心などが詰まっています。同じ浄瑠璃といっても常磐津節と



邦楽 明日への扉

協力 森永製菓株式会社

第3回 常磐津千寿太夫

2024
2/12
月・祝
14:00

【演目】

「老松」

常磐津千寿太夫、常磐津松希太夫、常磐津佐知太夫(浄瑠璃)

常磐津菊与志郎、常磐津美寿郎、常磐津紫十郎(三味線)

「小夜衣」

常磐津千寿太夫、常磐津初應太夫、常磐津松希太夫(浄瑠璃)

岸澤式松、常磐津祐二郎、岸澤満佐志(三味線)

「関の扉下」

常磐津千寿太夫、常磐津松希太夫、

常磐津初應太夫、常磐津佐知太夫(浄瑠璃)

常磐津菊寿郎、常磐津都史、岸澤満佐志(三味線)

第4回 都了中

2024
3/24
日
14:00

【演目】

「辰巳の四季」

都了中(浄瑠璃)

都一翠(三味線)

「都若衆万歳」

都了中(浄瑠璃)

都一志朗、都一千(三味線)

「石橋」

都了中(浄瑠璃)

都一中(三味線) [特別出演]

都楽中(上調子)

一中節ではその表現方法は異なり、どちらも中棹三味線を使用しますが響きも異なります。

千寿太夫と了中は言います。「ふたつの公演をお聴きいただき、違いを感じてもらえれば嬉しいです。最初は言葉もわかりにくく、とっつきにくく感じられるかもしれませんが、音が舞台の様子から何かは感じられると思います。難しいことは考えず、まずはお聴きいただきたいです」

取材・文／織田麻有佐(邦楽記者)

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

アウグスティン・ハーデリヒ

完璧なテクニク、澄み切った美音

今日のヴァイオリン界を代表する名手

アウグスティン・ハーデリヒ。1984年生まれだから40代に差し掛かうという時期にあるが、幼少から才能を発揮して神童として名を馳せたので、演奏歴は長い。とはいえってもそのキャリアは一時期大変な危機に見舞われた。15歳の時に全身に大やけどを負ってしまったのである。しかしヴァイオリンの道をあきらめず、20回以上もの手術を経て演奏の場に復帰、2006年にインディアナポリス国際ヴァイオリンコンクールに見事優勝を果たして、その実力を世界に知らしめた。ま

さに不屈の人といえるだろう。

両親はドイツ人だが生地はイタリアで、この地で教育を受け、さらにアメリカのジュリアード音楽院で学んだハーデリヒは、ヨーロッパの正統的なスタイルに根差しながら、今日のアーティストらしい完璧なテクニクとモダンな感性を備えたヴァイオリニストである。ともかくその技巧は超絶的で、どんな急速なパッセージでも難しい重音でもデジタル的ともいえる精確な音程で奏でる手腕はまこと鮮やか。それでいて技巧を誇示するようなところ



© Suxiao Yang

ろは一切感じられず、彼の奏でる音楽はどこまでも自然、最近の演奏家にしばしばみられるような、尖がったあざとい表現に陥ることはなく、構成力が堅固かつ端正で、感情に流されて造型が崩れることはない。とりわけ特筆すべきは澄み切った音で、練り上げられたその音色の美しさは聴く者の心を捉えて離さないものがある。こ

した美質が溶け合ったところから生まれる凛とした高潔な演奏がハーデリヒの身上だ。

その彼が16年ぶりに紀尾井ホールに登場する。残念ながら私は前回のリサイタルは聴き逃がしているが、まだ20代だったそのころと比べて、まさに脂の乗っている時期にある今のハーデリヒの演奏がさらに進化したものとなっていることはたしかだろう。今回彼が取り上げるのは、無伴奏ヴァイオリン作品ばかり。共演者のいない孤高のステージで自身の美質を存分に発揮してくれるに違いない。

無伴奏作品といえば、彼はバッハの無伴奏ヴァイオリン・ソナタとバルティータをコロナ禍の2020年にレコーディングして新しい境地を拓いた。この録音で彼はバロック弓を用いることでバッハに相応しい奏法を見出し、またその一方で古楽奏者が避けるヴィブラートを効果的に採用するなど、通常のモダン奏法と近年のピリオド奏法をブレンドさせた独自の表現を追求した。概して生氣ある速めのテンポのうちに澄명한叙情美を湛えたそのバッハ演奏は、この作品の録音史上に残る名演である。今回のリサイタルではバルティータの第3番と有名な「シャコンヌ」の付いた第2番が取り上げられるが、そうした彼独自のバッハ像が実演でどう示されるのか楽しみだ。

さらに今回のリサイタルでは、バッハの

影響で書かれたイザイの無伴奏ソナタの第3番、バッハ的なポリフォニーとブルーズの語法を結び付けたアメリカの黒人系作曲家コールリッジ・テイラー・パーキンソンの「ブルー／ズ・フォーム」、バロック時代のビーバーのソナタを下敷きにした現代アメリカの作曲家デイヴィッド・ラングのソナタ集「ミステリー・ソナタ」からの1曲が取り上げられる。バッハやその時代とのつながりを考えつつ近現代の作品を巧みに配したプログラミングに、ハーデリヒの優れたセンスが窺える。特にラングのソナタは彼が初演した作品だけに期待大。ハーデリヒの名技と音楽性を堪能できるリサイタルとなること間違いない。

文／寺西基之(音楽評論)

バロックから現代まで、 無伴奏作品をあますところなく堪能できる アウグスティン・ハーデリヒ 無伴奏ヴァイオリン・リサイタル

【曲目】
バッハ

：無伴奏ヴァイオリン・バルティータ
第3番 小長調

コールリッジ＝テイラー・パーキンソン：ブルー／ズ・フォーム
デイヴィッド・ラング

：ミステリー・ソナタ 第3曲
(Before Sorrow)

イザイ

：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ
第3番 短調 (バード)

バッハ

：無伴奏ヴァイオリン・バルティータ
第2番 短調

2024
2/18
日
14:00

※出演者の希望により、当初の発表から曲目が一部変更になりました。

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

歌舞伎をめぐる

音楽のことごと

第五回

歌舞伎と

河東節

江戸っ子の音楽

十七世紀も半ばになると徳川幕府のお膝元、新興都市の江戸では勇壮な音曲が好まれ、坂田金時(金太郎)の子の金平が超人的な活躍を見せる人形芝居(金平浄瑠璃)が流行りました。そんな気風は初代市川團十郎が元禄(1688~1704)のころに荒事を創る基盤となりました。

團十郎の家の芸「歌舞伎十八番」の中でひととき豪華な演目が「助六由縁江戸桜」です。江戸一番のいい男、花川戸助六が吉原の廓で活躍する歌舞伎絵巻。正徳3年(1713)に初代の子、二代目團十郎によって初演されました。その折は半太夫節の伴奏でしたが、享保18年(1733)の上演から河東節が演奏を受け持つようになりしました。ひとこと言うなら、河東節は、威勢がよく、粋で、そして品格もある硬

軟自在な江戸っ子の音楽です。すこし具体的に話しましょう。

細樟の三味線を「ハオー」という掛け声をかけて弾き始めるのが、いかにも江戸根生の風情で、リズムがカルでありながら、上品な軽やかさをそなえています。三味線には左の指で糸をはじく「ハジキ」と呼ばれる奏法がありますが、河東節では、この「ハジキ」が多用されます。突飛なたとえば、「私」はサラサーテの「チゴイネルワイゼン」やラヴェルの「ツイガヌ」に出てくる左手のピツイカートを連想します。

助六の出端をみる楽しみ

古典歌舞伎の演目で今日、河東節が演奏されるのは團十郎家の「助六由縁江戸桜」だけです。主人公が花道へ登場して踊る「出端」と呼ばれる所作にその特徴を見ることがができます。思い染めたる五所、で揚幕から花道へ登場した助六が、蛇の目の傘を開いた立ち姿にまず観客が喝采をおくります。舞台の傾城から紫の鉢巻の由来を問われ、この鉢巻は過ぎし頃…と謂れを踊ります。少ししつとりとした曲調です。途中で東の棧敷に向かって敬う形をします。そこは二代目團十郎が「助六」を演じたころ、大奥の美貌の御年寄(重役)江島が座っていた場所、江島は團十郎が大の鼻唄でした。ひよんなことから團十郎でなく役者仲間の生島新五郎が座敷の相手をし、すっかり遅くまで宴席が続

きました。江島はお城の門限に間に合わず、役者との遊場だと大スキヤンダルになり、生島は島流しの刑、江島は信州へ蟄居(幽閉)させられた、史上有名な江島生島事件(1714)です。敬う所作は、江島への謝罪といわれます。堤八丁、風さそうで左足を踏みだし、左の拳を握ってグツと睨み見得や、富士と筑波をかざし草で傘を両手で持って高く掲げてきまつたところは荒事の気風で、助六実はず我五郎という役の精神が発揮されます。荒事に二枚目の気分を織り込んだ二代目團十郎はまさに天才でした。紫の鉢巻がすべてを象徴しています。

十寸見河東と十寸見会

創始者の十寸見河東(1684~1725)は日本橋の魚商の倅で、歌舞音曲を愛好する典型的な若旦那、家業そっち

のけで半太夫に入門し、やがて享保2年

(1717)に創始しました。クラシック音楽ならバッハの時代の人ですから歴史は三百年。歌舞伎への出演は江戸後期から少なく、大正期を最後に家元も絶えましたが、旦那衆に愛好家が多かったため、やがてプロの演奏家の稽古の下に集う保存団体、河東節十寸見会が結成され今日に至っています。昭和37年4月の十一代目市川團十郎襲名披露興行の十寸見会連中には、團十郎に「源氏物語」を書いた舟橋聖一、日本画家の伊東深水、作家の安藤鶴夫、料亭つる家の出崎準一、第4期歌舞伎座を設計した建築家吉田五十八、九代目以来の後援者大根河岸の藤浦富太郎各氏をはじめ各界の名士が名を連ねました。現在は「助六」のほか「廓八景」「花の葉」など四十曲ほどの楽曲が継承されています。文/岡崎哲也(松竹株式会社常務取締役) /東京交響楽団 理事長)



助六由縁江戸桜(助六=11代目市川團十郎)
岡崎哲也所蔵

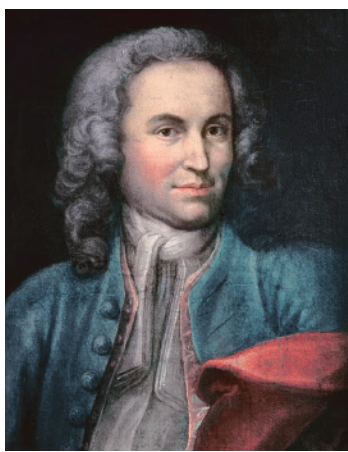
近代における フーガを めぐる

3話

バロック時代にJ.S.バッハによって確立され、集大成を極めた作曲様式「フーガ」。その後現在に至るまで、実に多くの作曲家に影響を及ぼしています。

1 古典派における フーガ再認識の背景

フーガは一つの声部の旋律を模倣する作曲手法で、すでにルネサンスからその手法は用いられ、とくにバロック時代ではバッハの「前奏曲とフーガ」を例に挙げるまでもなく、器楽作品のもっとも重要な作曲手法でした。しかし、18世紀前期から次第に、フーガは顧みられなくなってい



30代のJ.S.バッハ(1717年～1723年ごろと推定される)

ます。しかし、そのなかで1770年代になるとふたたびフーガは新しい意味を獲得するようになります。その最初のもっとも重要な作曲家はハイドンでした。ハイドンは、「太陽四重奏曲」で再びフーガを取り入れ、その影響はモーツァルトの「弦楽四重奏曲第13番」K.173にも反映しています。

18世紀から19世紀前期のウィーンではフーガの受容は二つの段階で行われました。一つは、シュテファン大聖堂の楽長ヨハン・ヨーゼフ・フックス(1660～1741)の作曲理論書「グラドウス・アド・パルナツスム」による作曲伝統の継承です。この理論書とこの書の系譜に由来するアルブレヒツベルガーの理論書は、ハイドンだけではなくモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトも用いました。

もう一つはバッハの受容です。ウィーン時代にモーツァルトは特にスヴィーテン男爵を通してバッハを知り、「ミサ曲や」交響曲第41番の終楽章などでフーガが用いられています。1801年に現在のペータース社の前身となる出版社からバッハの鍵盤音楽集が刊行されるようになると、バッハのフーガはその後の作曲家に強い影響を与えるようになります。そのもっとも重要な作曲家はベートーヴェンでした。弦楽四重奏曲「ラズモフスキー第3番」作品59-3や後期のピアノ・ソナタ、後期の弦楽四重奏曲にフーガが積極的に取り入れられ、「交響曲第9番」の第4楽章では

壮麗な合唱フーガが展開していきます。これらの作品で用いられたフーガでは、バッハのフーガともフックスのフーガとも異なるベートーヴェン独自の書法と表現となっています。

2 ロマン派の時代のフーガ

シューベルトも「さすらい人幻想曲」D.760や「幻想曲へ短調」D.940で素晴らしいフーガを作曲しています。ショパンは早い時期からバッハの作品を学んでおり、「ピアノ・ソナタ第1番」作品4ではフーガ書法がソナタの創作に用いられています。シューマンもフーガを尊重した作曲家でした。「クライスレリアーナ」作品16の第7曲にフガートを取り入れているほか、「ピアノ五重奏曲」作品44の第4楽章では見事な二重フーガが用いられています。1845年に、シューマンはバッハ研究をもとに「4つのフーガ」作品72を作曲しています。

もっとも忠実にバッハのフーガを継承したのはメンデルスゾーンです。ピアノのための「6つの前奏曲とフーガ」作品35とオルガンのための「3つの前奏曲とフーガ」作品37はその代表的な作品です。名作「厳格な変奏曲」作品54は全体でバロック時代の手法が自由な形で用いられ、フーガが含まれています。

3 19世紀後半から 20世紀にかけてのフーガ

19世紀後半ではブラームスがフーガの伝統を継承しました。その代表作は「ヘンデルの主題による変奏曲」作品24で終曲がフーガになっています。フーガはフランス音楽にも受け継がれており、フランスの「前奏曲、コラールとフーガ」や、「大オルガンのための6曲集」は傑作で、その第3曲にフーガが含まれています。

20世紀前期の作曲家マックス・レーガーもまたバッハの伝統を受け継いだフーガを作曲しています。ヒンデミットの「ルードス・トナリス」のフーガは注目に値する作品集で、さまざまなタイプのフーガが含まれています。そのほか、フランスのオネゲルもフーガに新しい生命を与えました。

文/西原稔(東邦学園大学名誉教授)

極められた美しいフーガの技法をたっぷりと

三菱地所 presents

紀尾井 明日への扉

第38回 本堂竣哉(ピアノ)

【曲目】

バッハ/ブゾーニ: 前奏曲とフーガ変ホ長調
《聖アン》BWV552

バッハ : イギリス組曲第3番ト短調
BWV808

ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ第29番変ロ長調 op.106
《ハンマークラヴィーア》

協賛:三菱地所株式会社

※公演開催についての最新情報は

紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

2024
2/22
木
19:00

公演当日のチケット提示で おトクなサービスを受けられます

ご協力店舗のご紹介

当財団主催公演をはじめ紀尾井ホールで開催されるすべての公演で、開催当日のチケット(公演後は半券)を提示すると、お店ごとのご利用条件に沿った各種サービスを受けられます(ただしご本人限り)。

※一部店舗で除外日があります。



東京ガーデンテラス紀尾井町

レ・ミルフォイユ・ドゥ・リベルテ
3,300円(税込)以上のお買上げで
季節のお花1本サービス

すばじろう
お食事をされた方にワンドリンクサービス

紀尾井町 くろげ
お食事でのご利用で
ファーストドリンクサービス

エリックサウス
3,000円(税込)以上のご
利用でワンドリンク無料

ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町

All-Day Dining OASIS GARDEN
お食事でのご利用で10%引き

WASHOKU 蒼天 SOUTEN
お食事でのご利用で10%引き

ワイン食堂PASTARS
3,000円(税込)以上のご利用で
ワンドリンク無料

ザ・キャピトルホテル 東急

オールディダイニング「ORIGAMI」
お食事をされた方に
ワンドリンクサービス

日本料理「水簾」
お食事をされた方に
ワンドリンクサービス

中国料理「星ヶ岡」
お食事をされた方に
ワンドリンクサービス

ホテルニューオータニ(東京)

ティー&カクテル ガーデンラウンジ
お食事をされた方にワンドリンクサービス

日本料理 KATO'S DINING BAR
コース料理をご注文の方に
ワンドリンクサービス

VIEW & DINING THE SKY
お食事をされた方にワンドリンクサービス

鉄板焼 石心亭/清泉亭/もみじ亭
お食事をされた方にワンドリンクサービス

料亭 千羽鶴
お食事をされた方にワンドリンクサービス

中国料理 大観苑
コース料理をご注文の方にワンドリンク
サービス

ビュッフェレストラン タワーレストラン
お食事をされた方にワンドリンクサービス

トレーダーヴィックス 東京
お食事をされた方にワンドリンクサービス

麵処 NAKAJIMA
ディナーコース料理をご注文の方に
ワンドリンクサービス

西洋料理 ベッラ・ヴィスタ
お食事をされた方にワンドリンクサービス

ステーキハウス RIBROOM
お食事をされた方にワンドリンクサービス

コモレ四谷

牛たん酒場たん之助 COMORE四谷店
お一人様650円以下の
ドリンク1杯プレゼント
(他のクーポンとの併用不可)

鮎こるり
コースをご注文の方に「日本酒
酎酒3種セット」をプレゼント
(ノンアルコールの方はソフトドリンク)

四谷うし幸
お食事をされた方に
ワンドリンク(ソフトドリンク)無料

162号7ページにて誤りがございましたので、次のとおり訂正してお詫びします。(誤)1997年4月→(正)1995年4月

近隣ご協力店舗での
このサービスの
詳しくはこちら ➡



紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》住友商事/日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所
 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/鹿島建設/商船三井/菅原/住友商事/日本郵船/丸紅/三井住友銀行/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社
 《ひびき会員》大林組/オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計
 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/荏原冷熱システム/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/みずほ証券/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
 《あおい会員》青木陽介/浅沼雄二/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤眞理子/井上善雄/岩城宏斗司/上野真志/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/小川 保/小倉 ヒロ・ミハエル/糟谷敏秀/片山國正/片山能輔/加藤巻恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/菊池恒雄/木谷 昭/楠野貞夫/栗山信子/河野紗妃/小坂部恵子/斎藤公善/齋藤幸子/坂詰貴司/坂根和子/佐久間庸行/佐伯いづく/澤田紀子/潮崎通康/柴田雅美/清水 正/清水康子/白土英明/末岡明武/鈴木順一/鈴木 亮/高下謙吉/田中 進/戸田純也/外山雄三/鳥居莊太/中塚一雄/中西達郎/中野洋子/中村健司/中山昌樹/名取正夫/原田清朗/日原洋文/冬木寛義/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松本美恵/丸井正樹/水口美輝/宮島正次/宮田宜子/宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/矢田部靖子/山内寿実/山口 聡/横手 聡/渡邊一夫/渡辺弘次/渡辺由香里 ほか匿名47名 計2420

(2023年12月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/九榮工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/鴻池運輸/小松シヤリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋁業/日鉄工材/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジ/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/日鉄プロセス/日鉄保険サービス/日鉄バルブ/日鉄溶接工業/日鉄レールウェイテクノス/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/幕張テクノガーデン/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業/ワコースチール 日本製鉄

(2023年12月1日現在)

07 紀尾井だより 163号 1月・2月

フォトレポート

9.24(日) 日本音楽財団共同企画 ストラディヴァリウス・コンサート 2023

ヴァイオリンのキム・スーヤン、マリア・ドゥエニャス、チェロのバブロ・フェランデスと、若手注目株の3人がストラディヴァリウスの豊潤な響きを聴かせてくれました。来年は世界中から演奏家が参集し、さらに豪華なプログラムを予定しています。どうぞご期待ください。



© 堀田力丸

10.10(火) リチャード・トネッティ&オーストラリア室内管弦楽団

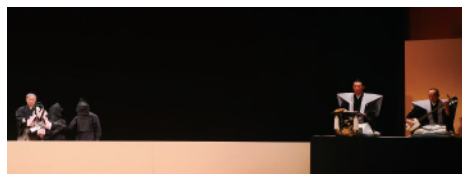
トネッティが弦楽合奏用に編曲したベートーヴェンの《クロイツェル》とヤナーチェクの《クロイツェル・ソナタ》を柱に据えたアグレッシブでACOらしいプログラム。奏者一人一人が自由であって、そしてリチャード・トネッティのリードのもと一つの音となって客席まで共鳴していた感覚でした。圧倒されました。



© Tomoko Hidaki

10.26(木) 浮世絵で楽しむ邦楽～大谷コレクション3 女形 三代目澤村田之助

幕末に美貌の女形として大人気を博した三代目澤村田之助。大谷コレクションが所蔵する貴重な浮世絵を鑑賞しながら、田之助について渡辺保が深掘り解説。後半は田之助の当たり役であった「深雪」(『朝顔日記(生写朝顔話)』)を大和楽と人形浄瑠璃でお届けしました。



© Tomoko Hidaki

11.17(金)・18(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第137回定期演奏会

バロック音楽の世界的権威、オッターヴィオ・ダントーネがKCOと初共演し、得意のヴィヴァルディやハイドンほか、自身が編曲したボルボラの協奏曲も披露しました。またこの公演が初来日となったコントラルトのデルフィーヌ・ガルー。バロック・オペラの名アリアを美しく、そして勇壮な歌声を聴かせてくれ、客席からはスタンディングオベーションと大きな拍手が贈られました。



© 武藤章

今号の表紙

『篠笛と梅』

〔協力〕花／レ・ミルフォイユ・ドゥ・リベルテ 紀尾井町店
篠笛／株式会社 岡田屋布施

「芸事は6歳の6月6日に始めると上達する」といわれているこの日は「梅の日」でもあるそう。春の訪れを告げる梅の花のそばに置かれているのは、横笛の代表格、篠笛です。篠笛は長さの違いでさまざまな調子の管があります。五、六、七の数字はそれぞれ、五本調子(A)、六本調子(Bb)、七本調子(B)を示しています。奏者は曲調に合わせて持ち替えます。

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

お知らせ

2023年12月発売の主催公演より
チケットぴあ、イープラス(クラシック公演のみ)に加え、
CNプレイガイド(電話予約:0570-08-9999/10:00~18:00年中無休)
でもチケットを取り扱っています。



紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527

公演の
最新情報などは
こちら

<https://kioihall.jp>

